

さまざまなヨーロッパ

飯島 周

今日は、さまざまなヨーロッパという題で、要するに何を話してもいいようにして貰いました。難しい話も難しくない話もあるでしょうが、私が体験したヨーロッパと関連させてみたいと思います。

先ほどの紹介にありましたように、ヨーロッパ旅行は何回も経験しました。時には年に2回位行ったこともあります。大体ヨーロッパの主な部分、日本で話題になりそうな所へは一応行ったという感じです。榊原先生以外にも木下先生と一緒したこともありますし、村松先生ともイギリスでお目にかかりました。この大学の多くの先生方はヨーロッパのことをよくご存じなので、なんだあんなことかと思われるかもしれません。又、自分で経験したことがあれば、それと関連させて考えて下さい。

ただ、何も手がかりがないと困るでしょうから、急いで作ったものですが、お手もとの資料を参考にして貰いたいと思います。それで、まず全体的な話、それから個別的な内容という順に話を進めるつもりです。

初めに、ヨーロッパという名前が何に由来するかですが、これはまだ知らない人が多いかもしれません。実はギリシア神話に関係すると言われています。この固有名詞の起源は、小アジアのフェニキアという、地中海の東端にあった都市国家にあります。今のシリアとかレバノンとか、あのあたりの国ですが、そこにヨーロッパという名前の王女様がいた。その王女を、ギリシア神話のオリュポスの神様の親玉であるゼウスが見初めて、誘惑する。白い雄の牛に化け、王女を背に乗せて海を越え、連れていったその場所がヨーロッパと呼ばれるようになった、ということです。

ここでヨーロッパの神話と宗教について触れておきます。ギリシア神話とローマ神話は文化圏がほぼ同じですから、非常に共通性があります。両方の神話に出てくる神様は、呼び名が違いますけれども、ほ

「さまざまなヨーロッパ」

〈資料1〉

1. 地理的区分

東・西・南・北

2. 民族的・文化的・言語的区分

ゲルマン・ラテン・スラヴ・ケルト・その他

3. 宗教的区分

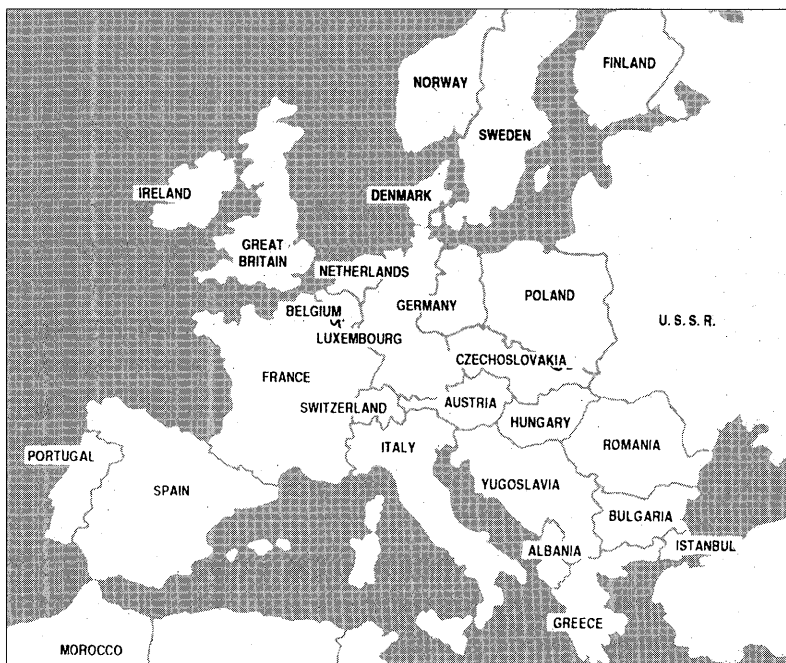
キリスト教・ユダヤ教・イスラム教

4. 国家的・政治的・産業的区分

君主制・民主制・農業・工業など

※ヨーロッパの全体的歴史、生活、習慣などについても話題を提供するつもりです。

ヨーロッパ主要部略図



とんど共通の性格です。たとえばゼウスというのはギリシア神話の形で、ローマ神話ですとユピテル、英語のジュピターです。ゼウスの奥さんはヘラで、ローマ神話ではユノ、英語のジュノー。おなじみの愛と美の女神は、ローマ神話でヴェヌス、英語のヴィーナスです。日本ではこれが一般的で、ギリシア神話のアフロディテ (Aphrodite) はあまり知られていないようです。ほとんど共通なのは太陽の神様で、若い男性の形ですが、ギリシア神話ではアポローン、ローマ神話ではアポロで、やはり後者の方がよく知られています。それから知識と学芸の女神はギリシア神話でアテナ (Athena)、ローマ神話ではミネルヴァ (Minerva) で、共通なのは鳥のフクロウを象徴としていることです。ギリシアのアテネの町のシンボルもフクロウです。勉強する人は夜になると目が覚める、というようなことと関係があるのかもしれませんが。

そんなわけで、神話といっても、ギリシアやローマはキリスト教のような一神教ではありませんから、大分性格が違います。後にキリスト教徒が、特にローマ帝国で華々しく、という言い方はよくありませんが、いろいろな形で殉教して、キリストの教えを広めて行った。その結果、キリスト教、つまり一神教がヨーロッパ全体で支配的な状態になった。本来ヨーロッパには土着の神様がたくさん居て、ゲルマン神話、ケルト神話などがありますが、最終的にはキリスト教にほとんど統一された感じ です。

先ほどの資料では3番目に挙げてある宗教的区分になりますが、実はキリスト教にもさまざまな宗派があります。ローマ、ヴァチカンを中心にしたカトリック教が大きな勢力を持つようになり、ヨーロッパの中世では、ローマ法王を頂点とするこの勢力が圧倒的な支配権を握っていた。例えがよくないかもしれませんが、今問題になっているタリバンほどではないにしても、カトリックの宗門でいろいろなことを決めて、その命令に従わないものは皇帝であっても破門する。魔女の裁判とか、まさに意味のないことで苦しめられた人もたくさんいたわけです。その後宗教改革が起り、いわゆるプロテスタントの動きが生じ、現在のヨーロッパの主要部では、キリスト教はカトリックとプロテスタントに大別されています。それから東ヨーロッパの方では、ギリシアから発生した、オーソドックス・チャーチ、正教と呼ばれるキリスト教の宗派があります。国によってわかれていて、ギリシア正教

とかスラヴの正教（これはロシア正教が代表ですが）とか呼ばれています。正教はカトリックでもプロテスタントでもなく、独特の戒律を守っています。例えば、男性の場合、聖職にある人はひげなどを伸ばしたままにする。ギリシアあたりへ行くとそんな人たちがあちこちにいます。また、偶像崇拜を禁じているので、基本的にはイコンと呼ばれるもの、すなわち肖像画とか壁画のような平らな面に描かれたものは拜んでいいけれども、立体の像は拜んではいけない、というような特徴があります。さらに、イギリスはある程度独立しまして、アングリカン・チャーチ、英国国教と呼ばれる、カトリックと似たような儀式のあるキリスト教になっています。というわけで、キリスト教と言っても、ヨーロッパではいろいろです。

それからユダヤ教ですね、これがあちこちにあります。ユダヤの人たちは、国を失ってから各方向に流浪していったわけですが、ある程度常識的なことは知っていた方がいいでしょう。まずイベリア半島のスペインの方へ流れたユダヤ人たちがいます。この人たちはセファルディ (Sephardi)、英語のスパニード、つまりスペイン人という意味の呼び名を与えられました。しかし、イベリア半島から追い出され、ずっと東の方へ行き、バルカン半島あたりからまたヨーロッパに入る、という曲がりくねった道筋を通りました。それからドイツ、スラヴ地域を中心とするユダヤ人たちがいます。この人たちはアシュケナジ (Ashkenazi) と呼ばれます。この名前はドイツ語に訳されるとドイツチャー (Deutscher) になりますので、ドイツ人という意味です。すなわち、ユダヤ人を大きく分けると、スペイン系とドイツ系になります。言葉も基本的に少し異なって、スペイン系の人たちはラディーノ (Ladino) というラテン系の言葉を、ドイツ系の人たちはイディッシュ (Yiddish)、つまりドイツ語のユーディッシュ (jüdisch)、英語のジュエイッシュに相当する言葉を用います。イディッシュの作家は、アメリカに渡ってかなり活躍していますから、アメリカ文学をやっている人はよく目にすると思います。これらのユダヤ系の人たちも、それぞれかなり厳しい戒律を守っています。

それからもう一つ、イスラム教徒、いわゆるモスLEMとかムスリムとか呼ばれる人たちがいます。これは例のモハメッドが開祖で、今問題のアフガニスタンあたりでは主流の宗教です。特にアラブ世界で非

常に普及して、主にアラビア語を使う人たちが帰依していますが、この宗教が東の方まで伸びて、インドネシアなどでもイスラム教が、国全体を支配する宗教という形で広がっています。イスラム教の人たちもヨーロッパとかかわりがあり、主として東の方から、トルコ人たちが代表的ですが、バルカン地方あたりを中心にして広がりました。現在でも、この勢力はかなり存在しています。さらに北アフリカからもイスラム教徒がやって来て、たとえばベルギーのような小さな国にも大勢定着しています。余談ですが、東京にも相当数のイスラム教信者がいるといわれています。

以上のキリスト教、ユダヤ教、イスラム教は元が一つです。一番古いのはユダヤ教で、いわゆる一神教、つまり神は唯一絶対の存在で、その神以外を信じてはいけないという強力な教義です。ギリシアやローマあたりのいい加減な神様、中心になる一番偉い神がやたらに人間の女を誘惑するような、そんなことはしない。非常に厳粛な神様です。このユダヤ教の神様は、日本ではエホバという呼び名が一番通用しています。この神が元ですが、宗教というものは、時代が経つとだんだんにある種の墮落をするわけで、その改革派として現れたのが、ユダヤ教の一派であるナザレ派の、後にイエス・キリストと呼ばれる人です。この人が改めて、新しい教義を持つキリスト教を創り出し、これが現在では世界的に一番有力な宗教だろうと思います。さらにその後になってイスラム教、アラーと呼ばれる唯一神を信ずる宗教が現れました。みんな同じ流れです。だからエルサレムの町はその意味で非常に複雑で、以上の三つの強力な宗教がいずれも聖地とし、この一つの聖地を巡ってさまざまな争いを繰り返す、という歴史をたどっています。

日本の仏教は、以上の枠からちょっと外れますが、どの宗教でも、中心になっている人たちは非常に強い信仰を持っているから、周辺部はごちゃ混ぜになっていい加減ですが、戒律を守るという点ではそれぞれの宗教には核になる部分があります。たとえば集团的礼拝に関して、キリスト教の場合は一般に英語でチャーチと呼ばれる所に集まって祈りをする。ユダヤ教ではシナゴグというユダヤ教の教会、もちろんキリスト教のチャーチとよく似ていますが、そこに集まる。イスラム教の人たちはモスクと呼ばれる所に集まって礼拝する。そうい

う習慣です。そこで思い出すことがあります。9月11日に、アメリカで大きな出来事、同時多発テロと呼ばれる忌まわしい事件が起こり、その後で、犠牲者を追悼する集まりを、9月15日の金曜日正午に開いて欲しいという要請が、ブッシュ大統領あたりから出されました。それは、その時間に、キリスト教の人はチャーチへ、ユダヤ教の人はシナゴグへ、イスラム教の人はモスクへ、それぞれ集まってお祈りをしてくれという全世界的な呼びかけでした。事件の時に私はたまたまブルガリアを旅行していて、15日正午にはハンガリーの空港にいましたが、サイレンが鳴り渡って、一斉のお祈りの合図をしていました。

日本ではそういうことはなかったそうですが、これは一つの象徴的な出来事と言えるでしょう。全世界的に、宗教というのは心の拠り所として、人間の生活を支える非常に大事な部分になっている。それが日本の場合は完全に崩れているところがありますから、どこかで立て直す必要があるかもしれません。日本の土着の宗教は神道ですが、日本では学校で教わらないから、知らない人が多いでしょう。日本の神話では、天照大神という太陽の女神が中心になっています。そして大勢の、いわゆるヤオヨロズ（八百万）の神々がいたわけですが、天照大神の子孫が今の日本の天皇家の基を作った、と伝えられています。そんなわけで、皇室では伊勢神宮に天照大神を祭り、礼拝に出かけるという伝統が守られています。そのことを我々の世代はとても小さい頃から教わったのですが、今の人たちはほとんど聞いていないでしょう。しかし、国の成り立ちにかかわる重要な話ですから、小さい時から知っていた方がいいんじゃないかと思います。アメリカのような新しい国は別ですが、どの国でも、古い国は建国の神話をもっている場合が多いです。日本も時代の流れでかなり分裂していますから、全体のまとまりは非常につかみにくくなっていますが、ヨーロッパには未だにそんな点である種のまとまりを保持している所がたくさんあります。ついでながら、宗教的に乱れている、あるいは錯綜しているのは、私自身の感じでは東ヨーロッパのバルカン地帯です。

ここで地域的な区分になりますが、ヨーロッパは結構広いので、東西南北に分けて説明すると都合がよいようです。西というのは、一般的にドイツから西の方で、やや北よりの部分、南というのは、大体地中海に面しているような地域、スペインからフランスの南部、イタリ

アとかギリシアで、アドリア海あたりの地域も入るでしょう。北というのは、いわゆる北歐三国、デンマーク、ノルウェー、スウェーデン、それからフィンランドのあたり。東というのはポーランド、チェコ、スロヴァキア、オーストリア、ハンガリー、ルーマニア、そしてブルガリア。このあたりは東の端で、すぐ隣がトルコですから、ヨーロッパの中心とは離れた感じですよ。それからウラル山脈の西側のロシア、それらを全部東ヨーロッパと呼んでいます。ただ最近では、中央ヨーロッパ、中部ヨーロッパという考えが提唱されて、東でも西でもなくヨーロッパの真ん中だ、と主張する国々が出てきました。チェコ、スロヴァキア、ハンガリー、オーストリア、さらにドイツなどですが、ドイツの場合は政治的な意味で東と西に分かれていた時代が長かったので、東ドイツと呼ばれる地域は、どうも東ヨーロッパという印象が強いようです。西と東と分けた場合、東ヨーロッパの方が全体的に農業国が多く、かなり貧しい地域です。日本ではお目にかからなくなっていますが、農家では馬や牛を使って畑仕事をしている。日本のように機械化されていない農業を営んでいる、古い感じのする地域で、経済的に苦しい国々です。そういう国々のことを考えると、我々が一般に持っているヨーロッパのイメージとは大分食い違っています。ヨーロッパと言えばやはり、文化的にも経済的にも優れている大都会のイメージ、それが多と思うのですが、決してそんな所ばかりではありません。今の日本に比べたら、遅れている（これも言い方が問題ですが）、昔ながらの生活をしている所もたくさんあります。そんな所へ行くとかえって懐しみを感じる人も多いことでしょう。これは歴史的な事情によるもので、ヨーロッパ全体の枠内で、さまざまな民族、さまざまな国が分かれて互いに喧嘩して来たことも一因です。

ところで、ヨーロッパの人たちを全体的に呼ぶにはどんな名前がよいか、という問題に移ります。人類学的にはコーカソイド (Caucasoid) という呼び方があります。ヨーロッパのずっと南東部の、中央アジアの隣にコーカサスという地域があって、そのあたりにいた人たちがヨーロッパに広がったんだろう、という考え方です。コーカサスというのは、英語では正確に言うと山脈のことです。人間の場合は -oid という語尾がつく形で、コーカソイド、すなわちコーカサス人種と呼ばれる白人を指し、この人たちがヨーロッパ全体に普通の、ほぼ同じよう

な人類学的特徴を持つ人種だ、ということになります。人種的にはそんな分類で、日本人が一般にモンゴロイド、つまりモンゴル人種と呼ばれる黄色人種である、というのと同様です。

ただし、こういう人種的なものとは別に、民族性と呼ばれるものがいつのまにか生じてきました。民族性は、文化的なもの、言語的なものと密接に結びついているので、大変複雑なものです。ヨーロッパでの主な民族性を分けると、大きく3系統になります。ゲルマン系、ラテン系、スラヴ系です。ゲルマン系は、一般的には西ヨーロッパの方で、ゲルマンとは英語のGermanです。もともとはドイツのあたりが中心で、東と北と西の三方に分かれました。言葉と民族の関係では、東ゲルマン系にはゴート語を使うゴート人というのがいて、ゴシック建築という様式を作りましたが、やがて消えてしまいました。北の方のゲルマンは北歐三国、つまりデンマーク、ノルウェー、スウェーデンの人たち。西ゲルマン系の人たちは、標準的なドイツからオランダ、さらに海を越えてイギリスまで渡りました。南ゲルマン系というのはありませんが、ある時期ゲルマン系の民族が大移動して、ヨーロッパ全体を荒らし廻り、南ヨーロッパからロシアの方まで押しかけて行った。イギリスの場合も、まず西ゲルマンが侵入して定住したのですが、その後で例のヴァイキングの仲間、北ゲルマンの勢力がやって来てぶつかり合いました。ゲルマン系はおおよそ以上です。

ラテン系と呼ばれるのは、ゲルマンと比較すれば南寄り、ローマ人を中心としたラテン系の人たちがあちこちを征服して廻り、その名残りをとどめています。ラテン系とは、もちろんイタリア、フランス、スペイン、ポルトガル、それから東へちょっと飛んでルーマニアです。ルーマニアとはローマニアで、ローマと関係します。つまり、ローマ帝国時代にローマ軍団が各地に派遣され、その地を征服して定住した。やがて西ローマ帝国が蛮族に滅ぼされたのですが、その時たまたまルーマニアにローマ人たちが取り残され、新しく独立した。ローマ本国との間に、東洋系の民族やスラヴ人たちが入り込んで、分断されてしまったのです。ラテン系はロマンス系とも呼ばれます。もちろんローマとの関係ですが、ヨーロッパの中世では長い華々しい物語の多くがロマンス語の仲間であつたため、現在の意味でのロマンス、ロマンという単語が生まれました。

それからスラヴ系ですが、ヨーロッパの東寄りに分布し、東と西と南に分かれます。東の代表的なのはロシアで、西スラヴはポーランド、チェコ、スロヴァキアなど。南スラヴの代表はセルビアとクロアチア、この二つはよく似ていて、ほとんど同一ですが、さらにマケドニアの方まで連続している。南スラヴは地理的にアラブ世界に近い上に、トルコとの接触も多く、イスラム教がかなり入り込んでいます。南スラヴは、ある時期まとまってユーゴスラヴィアという文字通り南スラヴの国を作っていました。それが分裂して、現在では非常に複雑な地域になっています。とても小さなスロヴェニアという人口200万くらいの国から、クロアチア、ボスニア・ヘルツェゴヴィナ、モンテネグロ、セルビア、マケドニアなどで、それぞれが政治的に対立するようになりました。特にセルビアとクロアチアは、非常に敵対的で、言葉もほとんど同じですし血のつながりも濃いのですが、それだけに深刻な争いをして来ました。最終的にはセルビアが悪い、ということで国際的な制裁を受けています。例のアルバニア系住民の多いコソヴォ地方の独立の要求も大きな火種です。(資料のこの地図は、昔のものですから細かい所まで分かれておりません) さらにこの地域は、先ほど述べたように、三つの宗教が大変入り乱れています。モザイク型になっているわけですね。それで現在では宗教的なことも絡んで、昔のように仲よくできない状況が生まれてしまいました。これも、ヨーロッパのある時代の、ある地域での歴史的縮図というわけで、今まで仲よくしていた隣の間人と、急に血を流すような争いをする、ということが現実はまだ起っているのです。

それで、ごく大ざっぱですが、何かの参考になるだろうと思うので、下の方に言語比較表というのを付けておきました。ある本 (*Lyall's Guide to the Languages of Europe*, 2nd ed. 1953) の一部のコピーです。表が四つで、一番左側の英語を基準にして、ゲルマン系とラテン系を比較した資料2と3、スラヴ系と比較した資料4、バルト系と、術語的に言うとインド・ゲルマン語系又はインド・ヨーロッパ語系とは異なるフィノ・ウゴル系とも比較した資料5、さらにギリシア語、アルバニア語と、その他の異系列の個々の言語との比較が資料6です。

授業などで聞いていれば大体納得できると思いますが、非常に古い時代に、先ほど述べたコーカサスあたりにいた人たちが四方に別れて

〈資料 2〉 言語比較表 (ゲルマン系)

ENGLISH	GERMAN	DUTCH
Level crossing.	Bahnübergang. Niveau- übergang.	Overweg.
Smokers.	Raucher.	Rook-coupe.
No. Non-. Do not . . .	Nicht. Kein.	Niet.
Alarm signal.	Notbremse.	Noodrem.
Open.	Offen. Auf.	Open.
Shut.	Geschlossen. Zu. Gesperrt.	Dicht.
Push.	Drücken. Stossen.	Duwen.
Pull.	Ziehen. Reißen.	Trekken.
Warm.	Warm.	Warm.
Cold.	Kalt.	Koud.
Waiting-room.	Warteraum.	Wachtkamer.
Bathroom.	Badezimmer.	Badkamer.
Dining-room.	Speisesaal.	Eetzaal.
Writing-room.	Schreibzimmer.	Leeskamer.
Lounge.	Halle.	Conversatie-zaal.
Spitting.	Spucken.	Spuwen.
Smoking.	Rauchen.	Rooken.
Admission.	Eintritt. Einfahrt. Das Betreten. Zutritt.	Toegang.
Forbidden.	Verboten. Untersagt.	Verboden.
Entrance.	Eingang.	Ingang.
Exit.	Ausgang.	Uitgang.
Lavatory.	Toilette. Abort.	W.C. Retirade.
Ladies.	Damen. Frauen.	Dames. Vrouwen.
Gentlemen.	Herren. Männer.	Heeren. Mannen.
Occupied.	Besetzt.	Bezet.
Free.	Frei.	Vrij.

NUMERALS

one	eins (<i>ighnss</i>)	een (<i>ayn</i>)
two	zwei (<i>tsvigh</i>)	twee (<i>tvay</i>)
three	drei (<i>drigh</i>)	drie (<i>dree</i>)
four	vier (<i>feer</i>)	vier (<i>feer</i>)
five	fünf (<i>fünf</i>)	vijf (<i>fighf</i>)
six	sechs (<i>zekhs</i>)	zes (<i>zess</i>)
seven	sieben (<i>zeeben</i>)	zeven (<i>zayfer</i>)
eight	acht (<i>ahkht</i>)	acht (<i>okht</i>)
nine	neun (<i>noyn</i>)	negen (<i>naykher</i>)
ten	zehn (<i>tsayn</i>)	tien (<i>teen</i>)
eleven	elf (<i>elf</i>)	elf (<i>elf</i>)
twelve	zwölf (<i>tsvurlf</i>)	twaalf (<i>tvahlf</i>)
thirteen	dreizehn (<i>drigh-tsayn</i>)	dertien (<i>dairteen</i>)
fourteen	vierzehn (<i>feertsayn</i>)	veertien (<i>fairteen</i>)
fifteen	fünfzehn (<i>fünftsayn</i>)	vijftien (<i>fighf-teen</i>)
sixteen	sechzehn (<i>zekhstsayn</i>)	zestien (<i>zesteen</i>)
seventeen	siebzehn (<i>zeepstsayn</i>)	zeventien (<i>zayfenteen</i>)
eighteen	achtzehn (<i>ahkhtsayn</i>)	achttien (<i>okht-teen</i>)
nineteen	neunzehn (<i>noynstsayn</i>)	negentien (<i>naykhtenteen</i>)

SWEDISH

Järnvägsövergång.

Rökare.
Icke.
Nödbroms.
Öppet.
Stängt.
Skjut.
Drag.
Varmt.
Kallt.
Väntsal.
Badrum.
Matsal.
Skrivrum.
Salong.
Spottning.
Tobaksrökning.
Tillträde.

Förbjuden.
Ingång.
Utgång.
Toilett.
Damer. För Kvinnor.
Herrar. För Män.
Upptaget.
Ledigt.

en (*ayn*), ett
två (*tvau*)
tre (*tray*)
fyra (*fjira*)
fem (*fem*)
sex (*sex*)
sju (*shoo*)
åtta (*otta*)
nio (*necoo*)
tio (*teoo*)
elva (*elva*)
tolv (*tolv*)
tretton (*tretton*)
fjorton (*fyooton*)
femton (*femton*)
sexton (*sexton*)
sjuotton (*shooton*)
aderton (*arton*)
nitton (*nitton*)

DANISH

Togoverskaering.

Rygere.
Ikke.
Nødsignal.
Aaben.
Lukket.
Tryk.
Træk.
Varmt.
Koldt.
Ventesal.
Badeværelse.
Spisesal. Spisestue.
Læsesal.
Vestibule.
Spytning.
Tobaksrygning. Rygning.
Adgang.

Forbudt. Ikke Tilladt.
Adgang. Indgang.
Udgang.
Toilette. W.C.
Damer. Kvinder.
Herrer. Mænd.
Optaget.
Fri.

en (*ayn*), et
to (*toh*)
tre (*tray*)
fire (*feer*)
fem (*fem*)
seks (*sex*)
syv (*süv*)
otte (*ohdeh*)
ni (*nee*)
ti (*tee*)
elve (*elver*)
tolv (*tohl*)
tretten (*tradden*)
fjorten (*fyorden*)
femten (*femden*)
seksten (*sexden*)
sytten (*sütten*)
atten (*adden*)
nitten (*needen*)

NORWEGIAN

Jernbaneoverskjæring.

Røkere.
Ikke.
Alarm signal.
Åpen.
Lukket.
Trykk.
Trekk.
Varmt.
Koldt.
Venterumm.
Badeværelse.
Spisesal.
Skriveværelse.
Foyer.
Spytning.
Røkning.
Adgang.

Forbudt.
Inngang.
Utgang.
Toalett.
Damer. Kvinner.
Herrer. Menn.
Optatt.
Ledig.

en (*en*), et
to (*toh*)
tre (*tray*)
fire (*feerer*)
fem (*fem*)
seks (*sex*)
syv (*süv*)
otto (*ohter*)
ni (*nee*)
ti (*tee*)
elve (*elver*)
tolv (*tol*)
tretten (*trethen*)
fjorten (*fyorithen*)
femten (*femthen*)
seksten (*saysithen*)
sytten (*süithen*)
atten (*ahthen*)
nitten (*neethen*)

〈資料 3〉 言語比較表 (ラテン系)

ENGLISH	FRENCH	ITALIAN
Obstruction.	Cassis.	Passaggio ostruito.
Sharp corner.	Tournant brusque. Virage.	Svolta pericolosa.
Dangerous crossroad.	Croisement dangereux.	Crocevia pericolosa. Cro- cicchio.
Level crossing.	Passage à niveau.	Passaggio a livello.
Smokers.	Fumeurs.	Fumatori.
No. Non-. Do not. . . .	Non. Pas.	Non. Vietato.
Alarm signal.	Signal d'alarme.	Segnale d'allarme.
Open.	Ouvert.	Aperto.
Shut.	Fermé.	Chiuso.
Push.	Poussez.	Spingere.
Pull.	Tirez.	Tirare.
Warm.	Chaud.	Caldo.
Cold.	Froid.	Freddo.
Waiting-room.	Salle d'attente.	Sala d'aspetto.
Bathroom.	Salle de bain.	Sala da bagno.
Dining-room.	Salle à manger.	Sala da pranzo.
Writing-room.	Salle de lecture.	Sala da scrivere.
Lounge.	Salon.	"Hall." Salone.
Spitting.	Cracher.	Sputare.
Smoking.	Fumer.	Fumare.
Admission.	Entrer.	L'ingresso.
Forbidden.	Defense de . . .	Vietato. Proibito.
Entrance.	Entrée.	Entrata.
Exit.	Sortie.	Uscita.
Lavatory.	Cabinet. W.C.	Ritirata. Toeletta.
Ladies.	Dames.	Signore. Donne.
Gentlemen.	Messieurs.	Signori. Uomini.
Occupied.	Occupé.	Occupato.
Free.	Libre.	Libero.

NUMERALS

one	un (<i>ung</i>), une	uno (<i>oono</i>), una
two	deux (<i>dur</i>)	due (<i>dooeh</i>)
three	trois (<i>trwah</i>)	tre (<i>treh</i>)
four	quatre (<i>kuttre</i>)	quattro (<i>kwahttro</i>)
five	cing (<i>sang</i>)	cinque (<i>cheenkweh</i>)
six	six (<i>seess</i>)	sei (<i>say-ee</i>)
seven	sept (<i>set</i>)	sette (<i>setteh</i>)
eight	huit (<i>weef</i>)	otto (<i>otto</i>)
nine	neuf (<i>nurf</i>)	nove (<i>nawveh</i>)
ten	dix (<i>deess</i>)	dieci (<i>deedaychee</i>)
eleven	onze (<i>awngz</i>)	undici (<i>oondy-chy</i>)
twelve	douze (<i>dooz</i>)	dodici (<i>dohdy-chy</i>)
thirteen	treize (<i>trayz</i>)	treddici (<i>traydy-chy</i>)

SPANISH

Obstáculo. Obstrucción.
Curva cerrada.
Encrucijada peligrosa.

Paso al nivel.
Fumadores.
No.
Señal de alarma.
Abierto.
Cerrado.
Empuje. Empujar.
Tire. Tirar.
Caliente.
Frio.
Sala de espera.
Cuarto de baños.
Comedor.
Sala de escribir.
Salón. Sala.
Escupir.
Fumar.
La entrada.
Se prohíbe.
Entrada.
Salida.
Retrete. W.C.
Señoras. Damas.
Señores. Caballeros.
Ocupado.
Libre

uno (*oono*), una
dos (*dohss*)
tres (*trayss*)
cuatro (*kwahtro*)
cinco (*theen_o*)
seis (*say-ess*)
siete (*see-ayteh*)
ocho (*ochó*)
nueve (*nwayveh*)
diez (*dee-eth*)
once (*ontheh*)

doce (*dohtheh*)

trece (*traytheh*)

PORTUGUESE

Direcção proibida.
Volta. Curva.
Encrusilhada perigosa.

Passagem de nivel.
Fumadores.
Não.
Sinal d'alarme.
Aberto.
Fechado.
Empurre.
Puxe.
Quente.
Frio.
Sala de espera.
Quarto de banho.
Sala de jantar.
Escritorio.
Salão.
Cuspir.
Fumar.
A entrada.
E proibido.
Entrada.
Sahida.
Retrete. W.C.
Senhoras.
Cavalheiros. Homeus.
Ocupado.
Livre.

um (*oong*), uma
dois (*doyzh*)
tres (*trezh*)
quatro (*kwahtroo*)
cinco (*seeng_{oo}*)
seis (*sayzh*)
sete (*set*)
oito (*oytoo*)
nove (*nawv*)
dez (*dezh*)
onze (*ongz*)

doze (*dohz*)

treze (*trayz*)

RUMANIAN

Obstacol.
Cotitură ascuțită.
Încrucisare periculoasă.

Pașaj la nivel.
Fumători.
Nu. . . . Nu.
Semnal de alarmă.
Deschis.
Închis.
Împingeți.
Trageți.
Cald.
Rece.
Sală de așteptare.
Sală de bae.
Restaurant.
Sală de lectură.
Salon.
Scuipatul.
Fumatul.
Intrarea.
Oprit.
Intrare.
Eșire.
Toaletă. W.C.
Doamne. Dames.
Domni. Bărbați.
Ocupat.
Liber.

un, (*oon*)ună
doi, două (*do-ee, do-wer*)
trei (*tray*)
patru (*pahtroo*)
cinci (*chinch*)
șase (*shahsseh*)
șapte (*shahpteh*)
opt (*opt*)
nouă (*no-wer*)
zece (*zaytcheli*)
unsprezece (*oonsprayzay-
cheh*)
doisprezece (*do-eesprayzay-
cheh*)
treisprezece (*traysprayzay-
cheh*)

〈資料 4〉 言語比較表 (スラヴ系)

ENGLISH	RUSSIAN	POLISH
Sharp corner.	Острый угол.	Ostry zakręt.
Dangerous crossroad.	Опасный перекресток.	Niebezpieczne skrzyżowanie dróg.
Level crossing.	Плагбаум.	Przejazd.
Smokers.	Курящий.	Dla palących.
No. Non-. Do not . . .	Не.	Nie.
Alarm signal.	Тормаз.	Sygnal alarmowy.
Open.	Открыто.	Otwarte.
Shut.	Закрето.	Zamknięte.
Push.	Толкать.	Pchnąć.
Pull.	Тянуть.	Pociągnąć ku sobie.
Warm.	Тепло.	Ciepło.
Cold.	Холодно.	Zimno.
Waiting room.	Зал.	Poczekalnia.
Bathroom.	Ванная.	Łazienka.
Dining room.	Столовая.	Jadalnia.
Writing room.	Читальня.	Czytelnia.
Lounge.	Зал.	Salon.
Spitting.	Плевать.	Pluć.
Smoking.	Курить.	Pać.
Admission.	Вход.	Wejście. Wjazd.
Forbidden.	Воспрещается.	Nie wolno. Wzbronione.
Entrance.	Вход.	Wejście.
Exit.	Выход.	Wyjście.
Lavatory.	Уборная.	Tualeta.
Ladies.	Женская. Женщины.	Dla pań. Dla kobiet.
Gentlemen.	Мужская. Мужчины.	Dla panów. Dla mężczyzn.
Occupied.	Занято.	Zajęty.
Free.	Свободно.	Wolny.

NUMERALS

one	odin (<i>awdyeen</i>)	jeden (<i>yedden</i>)
two	dva (<i>dvah</i>)	dwa (<i>dvah</i>)
three	tri (<i>tree</i>)	trzy (<i>tzhee</i>)
four	chetýre (<i>chetteereh</i>)	cztery (<i>chtery</i>)
five	pyat' (<i>pyah</i>)	pięć (<i>pyench</i>)
six	shest' (<i>shayst</i>)	sześć (<i>sheshch</i>)
seven	sem' (<i>syaym</i>)	siedem (<i>shedden</i>)
eight	vósem' (<i>vawss'm</i>)	ósm (<i>ohshem</i>)
nine	dévyat' (<i>dyayvet</i>)	dziewięć (<i>djevyench</i>)
ten	désyat' (<i>dyayssset</i>)	dziesięć (<i>djessyench</i>)
eleven	odinnadtsat' (<i>awdyeennodtsah</i>)	jedenaście (<i>yeddenahshchek</i>)
twelve	dvenádsat' (<i>dvaynahdtsah</i>)	dwanaście (<i>dvahnahshchek</i>)
thirteen	trinádsat' (<i>treenahdtsah</i>)	trzynaście (<i>tzheenahshchek</i>)
fourteen	chetýrnadtsat' (<i>chayteernodtsah</i>)	czternaście (<i>chtaimahshchek</i>)

CZECH

Prudká zatáčka.
Nebezpečná křižovatka.

Přechod. Pozor na vlak.
Kuřáci.
Ne.
Záchranná brzda.
Otevři. Otevřeno.
Zavři. Zavřeno.
Zastrč.
Táhni.
Tepló.
Chladno.
Čekárna.
Koupelna.
Jídelna.
Pisárna.
Zábavní místnost.
Plivati.
Kouření.
Vstup.
Zakázáno.
Vchod. Příchod.
Východ.
Záchod.
Dámy. Ženy.
Páni. Muži.
Obsazeno.
Volno.

SERBO-CROAT

Opasna krivina.
Opasna raskrsnica.

Rampa.
Za pušáče.
Ne.
Bremza za uzbuni.
Otvoreno.
Zatvoreno.
Gurnite.
Povucite.
Toplo.
Hladno.
Čekaonica.
Kupatilo.
Ručaonica.
Sala za pisanje.
Sala. Dvorana.
Pljuvati.
Pušiti.
Ulaz.
Zabranjeno.
Ulaz. Uhod.
Izlaz. Izhod.
Nužnik. Zahod.
Za dame. Za ženske.
Za gospodu. Za muške.
Zauzeto.
Slobodno.

BULGARIAN

Силень завой.
Опасень кржсто-
пжть.
Внимание влака.
Пушачи.
Не.
Аларменъ сигналъ.
Отворено.
Затворено.
Бутай. Блъсни.
Дръпни.
Топло.
Студено.
Чакална.
Баня.
Столовая.
Писалня.
Антре.
Плюене.
Пушене.
Входъ.
Забранено.
Входъ.
Иаходникъ.
Нуждникъ.
За дами.
За мъже.
Заето.
Свободно.

jeden (*yedden*), jedna, jedno
dva (*dvah*), dvě
tři (*tzhee*)
čtyři (*chteezhee*)
pět (*pyet*)
šest (*shest*)
sedm (*seddam*)
osm (*ossem*)
devět (*devvyet*)
deset (*desset*)
jedenáct (*yeddenahst*)

dvanáct (*dvunnahst*)

třináct (*tzheenahst*)
čtrnáct (*chternahst*)

jedan (*yeddahn*)
dva (*dvah*)
tri (*tree*)
četiri (*chetleeree*)
pet (*pet*)
šest (*shest*)
sedam (*seddam*)
osam (*ohssahm*)
devet (*devvet*)
deset (*desset*)
jedanaest (*yeddanah-est*)

dvanaest (*dvahnah-est*)

trinaest (*treenah-est*)
četrnaest (*chternah-est*)

edno (*ednoh*)
dve (*dveh*)
tri (*tree*)
chétiri (*chetty-ry*)
pet (*pet*)
shest (*shest*)
sédem (*seddem*)
ósem (*ossem*)
dévet (*devvet*)
déset (*desset*)
edenádeset (*eddy-nighssy*)

dvanádeset (*dvahnighssy*)

trenádeset (*traynighssy*)
chetirinádeset (*chettiry-
nighssy*)

〈資料5〉言語比較表 (フィン・ウゴール系・バルト系)

ENGLISH	HUNGARIAN	FINNISH
Sharp corner. Dangerous crossroad.	Éles kanyar. Veszélyes kanyar.	Jyrkkä kulma. Vaarallinen tienristeys.
Level crossing.	Sorompó. Vasut kereszte- zés.	Ylikäytävä.
Smokers. No. Non-. Do not . . .	Dohányzóknak. Megálljon. Ne tegye.	Tupakoitsijoille. Ei. Ei—. Älkää. . .
Alarm signal.	Vészfék.	Hälyytysmerkki.
Open.	Nyissa ki.	Avoin.
Shut.	Csukja be.	Sulettu.
Push.	Tólni.	Työnnä.
Pull.	Húzni.	Vedä.
Warm.	Meleg.	Lämmin.
Cold.	Hideg.	Kylmä.
Waiting-room.	Várótérem.	Odotussali.
Bathroom.	Fürdőszoba.	Kylpyhuone.
Dining-room.	Étterem.	Ruokasali.
Writing-room.	Írószoba.	Kirjoitushuone.
Lounge.	Hall.	Vierashuone.
Spitting.	Köpni.	Sylkeminen.
Smoking.	Dohányozni.	Tupakanpolttto.
Admission.	Bemenet. Belépés.	Sisäänpääsy.
Forbidden.	Tilos.	Kielletty.
Entrance.	Bemenet.	Sisäänkäytävä.
Exit.	Kimenet.	Uloskäytävä.
Lavatory.	W.C.	W.C.
Ladies.	Nőknak. Hölgyek.	Naisille.
Gentlemen.	Férfiak. Úrak.	Michille.
Occupied.	Foglalt.	Varattu. Ylösotettu.
Free.	Szabad.	Vapaa.
NUMERALS		
one	egy (<i>adge</i>)	yksi (<i>üksy</i>)
two	két, kettő (<i>kayt, kattur</i>)	kaksi (<i>kucksy</i>)
three	három (<i>hahrawm</i>)	kolme (<i>kolmeh</i>)
four	négy (<i>naydge</i>)	neljä (<i>nellya</i>)
five	öt (<i>ert</i>)	viisi (<i>veesy</i>)
six	hat (<i>hot</i>)	kuusi (<i>koosy</i>)
seven	hét (<i>hayt</i>)	seitsemän (<i>saytseman</i>)
eight	nyolc (<i>nyawlts</i>)	kahdeksan (<i>kukhdeksan</i>)
nine	kilenc (<i>kíllants</i>)	yhdeksän (<i>ühhdeksan</i>)
ten	tíz (<i>teez</i>)	kymmenen (<i>kümmennen</i>)
eleven	tizenegy (<i>tizzenadge</i>)	yksitoista (<i>üksy-toysta</i>)
twelve	tizenkét (<i>tizzenkayt</i>)	kaksitoista (<i>kucksy-toysta</i>)
thirteen	tizenhárom (<i>tizzenhahrawm</i>)	kolmetoista (<i>kolmeh-toysta</i>)

ESTONIAN

Terav nurk.
Kardetav risttänav.
Ülesõit raudteest. Hoia
rongi eest.
Suietajad.
Ei. Mitte-. Ärge.
Hädasignaal.
Lahti. Avatud.
Kinni. Suletud.
Lükata.
Tõmmata.
Soe.
Külm.
Ooteruum.
Vannituba.
Söögituba.
Kirjutustuba.
Eestuba.
Sülitamine. Sülgamine.
Suietamine.
Sissepääs.
Keelatud.
Sissekäik. Sissepääs.
Väljakäik. Väljapääs.
Väljakäigukoht. Klosett.
W.C.
Naistele.
Meestele.
Kinni. Äravõetud.
Vaba.

üks (*üks*)
kaks (*kaks*)
kolm (*kolm*)
neli (*neli*)
viis (*vees*)
kuus (*koos*)
seitse (*saitseh*)
kaheksa (*ka-heksa*)
üheksa (*ühiksa*)
kümme (*kümneh*)
üksteist (*ükstayst*)

kaksteist (*kakstayst*)
kolmteist (*kolmstayst*)

LETTISH

Ass pagriezīens.
Bistama skērsiela. Bistams
krustojums.
Līdzens krusojums.
Smēķētājiem.
Ne.
Nelaimes zignalizācija.
Atvērts.
Slēgts.
Grūst.
Vilkt.
Silts.
Auksts.
Uzgaidāmā istaba.
Vannas istaba.
Edamistaba.
Rakstamistaba.
Priekšistaba.
Spļaut.
Smēķēt.
Atļauja.
Aizliegts.
Ieeja.
Izeja.
Ateja. W.C.

Dāmām. Sievietēm.
Kungiem. Viriešiem.
Aizņemts.
Brīvs.

viens (*vyenss*)
divi (*divvy*)
trīs (*treess*)
četri (*chettry*)
pieci (*pyetsy*)
seši (*seshy*)
septiņi (*septinnyy*)
astoņi (*ustawnyy*)
deviņi (*devvy-nyy*)
desmit (*dessmit*)
vienpadsmit (*vyenpud-*
smit)
divpadsmit (*divpudssmit*)
trīspadsmit (*treespudssmit*)

LITHUANIAN

Staigus pasisukimas.
Pavojingas kryžkelis.
Geležinkelio pervažas.
Rūkantiems.
Ne. Nėra.
Pavojaus signalas.
Atidarytas.
Uždarytas.
Stumk.
Trauk.
Šilta.
Šalta.
Laukiamasis kambarys.
Vonias.
Valgomasis kambarys.
Rašomasis kambarys.
Sedimasis kambarys.
Spiaudymas.
Rūkymas.
Įėjimas.
Draudžiama.
Įėjimas.
Išėjimas.
Išnamojo vieta.

Ponioms. Moterims.
Ponams. Vyrams.
Užimta.
Liuosa.

vienas (*vyaynahss*)
du (*doo*)
trys (*treess*)
keturi (*kettooree*)
penki (*penke*)
šeši (*sheshee*)
septini (*septinne*)
aštoni (*ahshtonee*)
devyni (*dayvneee*)
dėsimts (*dashimts*)
vieniulika (*vyaynwolicka*)

dvylika (*dveelicka*)
trylika (*treelicka*)

言〈資料6〉語比較表 (ギリシア語・アルバニア語・)

ENGLISH	GREEK	ALBANIAN
Obstruction.	ΠΡΟΣΟΧΗ ΕΜΠΟΔΙΑ.	Ndalim.
Sharp corner.	ΑΠΟΤΟΜΟΣ ΣΤΡΟΦΗ.	Kand i prehët. Qoshe e prehët.
Dangerous crossroad.	ΕΠΙΚΙΝΔΥΝΟΣ ΔΙΑΣΤΑΥΡΩΣΙΣ.	Kryqëzim rruge i rrezikshëm.
Level crossing.	ΙΣΟΠΕΔΟΣ ΒΑΣΙΣ.	Udhëtimi i rrafësh.
Smokers.	ΚΑΠΝΙΣΤΗΡΙΟΝ.	Ata që pijnë duhan.
No. Non-. Do not . . .	ΜΗ . . .	As nji. As kush. Mos.
Alarm signal.	ΣΗΜΑ ΚΙΝΔΥΝΟΥ.	Shej rreziku.
Open.	ΑΝΟΙΚΤΟΝ.	Hapni.
Shut.	ΚΛΕΙΣΤΟΝ.	Mbyllni.
Push.	ΩΘΗΣΑΤΕ.	Shtyeni.
Pull.	ΣΥΡΑΤΕ.	Ngrehni.
Warm.	ΘΕΡΜΟΝ.	Nxehtë.
Cold.	ΨΥΧΡΟΝ.	Ftofët. Ftohët.
Waiting-room.	ΑΙΘΟΥΣΑ ΜΟΝΗΣ.	Dhomë pritjeje.
Bathroom.	ΛΟΥΤΡΟΝ.	Dhomë banje. Banjo.
Dining-room.	ΤΡΑΠΕΖΑΡΙΑ.	Dhomë për të ngrën.
Writing-room.	ΑΝΑΓΝΩΣΤΗΡΙΟΝ.	Dhomë për të shkruë.
Lounge.	ΣΑΛΟΝΙ.	Dhomë pritjeje. Dhomë ndejet.
Spitting.	ΠΤΥΕΙΝ.	Të pështyemit.
Smoking.	ΤΟ ΚΑΠΝΙΣΜΑ.	Të pimit duhan.
Admission.	Η ΕΙΣΟΔΟΣ.	E hymja.
Forbidden.	ΑΠΑΓΟΡΕΥΕΤΑΙ.	Ndalume.
Entrance.	ΕΙΣΟΔΟΣ.	E hymja.
Exit.	ΕΞΟΔΟΣ.	E dalmja.
Lavatory.	ΑΠΟΧΩΡΗΤΗΡΙΟΝ.	Nevojtoë.
Ladies.	ΚΥΡΙΑΙ. ΓΥΝΑΙΚΩΝ.	Zonjat.
Gentlemen.	ΚΥΡΙΟΙ. ΑΝΔΡΩΝ.	Zotnft.
Occupied.	ΠΙΑΣΜΕΝΟΝ.	E xanun E okupueme.
Free.	ΕΛΕΥΘΕΡΟΝ.	E pa xanun.

NUMERALS

one	ένas, μία, ένα (ennas, meea, enna)	nji (nyee)
two	δύo (dheo)	dy (dü)
three	τρεις (treess)	tre, tri (treh, tree)
four	τέσσαρες (tessaress)	katër (kahter)
five	πέντε (pendeh)	pesë (pess)
six	έξι (exy)	gjashtë (dyahsht)
seven	έφρα (ephrah)	shtatë (shtahi)
eight	όχτώ (okhtaw)	tetë (tel)
nine	έννέα (ennaya)	nandë (nahm)

TURKISH	ARABIC	ESPERANTO
Kapatılmış yol. Sert dönüş noktası.	حاجز (hagiz) فتحة حادة (lafteh haddah)	Obstrukco. Akutangulo.
Tehlikeli iltisak noktası.	خطر - تقاطع طرق (khatar' taquatô' torok)	Danĝera kruciĝo.
Demir yolunu katı noktası.	مزلکان (mazlakan)	Samnivela transirejo.
Sigara içenler. Hayır. İstimdat işareti. Açık. Kapalı. İtiniz. Cekiniz. Sıcak. Soğuk. Bekleme salonu.	مدخنون (modakhenûn) لا (la) علامة خطر (âlamit khatar) افتح (eftah) اقتل (ekfel) ادفع (edfâ) اسبب (ess'hab) دافئ (dafi) بارد (bared) غرفة الانتظار (ghorfet el-entezar)	Fumantoj. Ne. Alarmilo. Malfermu. Fermu. Puŝu. Tiru. Varma. Malvarma. Atendejo.
Banyo. Yemek odası. Mütalaa salonu.	الحمام (el-hammâm) غرفة الاكل (ghorfet el-akl) غرفة الكتابه (ghorfet el-ketaba)	Banĉambro. Manĝoĉambro. Skrībĉambro.
Salon.	غرفة الاستراحة (ghorfet el-esteraha)	Salono.
Tükürmek. Sigara içmek. Girmek. Yasak. Girme. Çıkış. Apteshane. Kadınlar. Erkeler. Meşgul. Serbest.	اليسق (el-bask) التدخين (el-tadkhîn) الدخول (el-dukhûl) ممنوع (mamnû') المدخل (el-madkhal) للخروج (lel'khorûĝ) مرحاض (merhâd) سيدات (lel-sayedat) رجال (regâl) مشغول (mashghool) فأدى (fâdi)	Kraĉado. Fumado. Enlaso. Eniro. Malpermesata. Enirejo. Elirejo. Necesejo. Sinĝorinoj. Sinĝoroj. Okupata. Vakanta. Libera.
bir (beer)	١ wâhid, wahdeh (wah-hid, wahĥder)	unu (oonoo)
iki (eekee)	٢ itnein (itnain)	du (do)
üç (üch)	٣ talâteh (tullahter)	tri (tree)
dört (durt)	٤ arba'a (arbaah)	kvar (kvar)
beş (besh)	٥ khamsch (humsser)	kvin (kveen)
altı (ahltı)	٦ sittch (sittler)	ses (ses)
yedi (yeddee)	٧ sab'a (subbah)	sep (sep)
sekiz (seckeez)	٨ tamânyeh (tumalnuyyer)	ok (ock)
dokuz (dokooz)	٩ tis'a (tissah)	naŭ (now)

移動を開始して、一番東はインドまで、一番西はグリーンランド、つまりゲルマン系の西端まで行った。そこでインドからゲルマンまでの人たちが、ずっと昔は同じ言葉（共通基語）を使っていた、という仮説が立てられ、それがある程度学問的に証明された。すなわち、元は同じ言葉だったが、さまざまな事情で形が変わって来たのだ、という考え方です。特にドイツの学者を中心に研究されて、インド・ゲルマン語という言語系統が作り上げられました。ただ、ゲルマンというのは適切でない、と言うので、現在ではインド・ヨーロッパ語と呼ぶのが一般的です。この研究、比較言語学又は比較文法は、ある意味で非常にわかりやすく、19世紀末頃には最高潮に達し、現在でも続けられています。インド・ヨーロッパ語以外の言語系統としては、ウラル山脈・アルタイ山脈を中心とするウラル・アルタイ語系、昔のエジプトやアラブの人たちが使っているセム・ハム語系などがあります。セム語族の中にはユダヤ人も含まれるので、反ユダヤ運動のことを反セム人運動などと呼んだ時代もあります。ユダヤ人の言葉すなわちヘブライ語と、アラブ人の言葉すなわちアラビア語は、元は同じということで、非常に血の近い人たちですが、これが今大変な争いをしている。イスラエルという国、一旦滅亡した国がもう一度復活して割り込む形になったので、まわりのアラブ系の人たちが非常な憤りを感じたのでしょう。日本語の系統はあまり明らかではありません。ある時期にはアルタイ系の言語、すなわちトルコ語、蒙古語、それから朝鮮半島の言葉と同系だといわれましたが、ちゃんとした証明はできていません。一億人以上の人が使っているのに、他の言葉と関係がないとは、日本語は不思議な言葉だ、ということになっています。

それでは資料について少しずつ説明します。まずゲルマン系の言葉ですが、二、三の例だけにしましょう。まず資料2の下、NUMERALS（数詞）という欄を見て下さい。英語、ドイツ語、オランダ語、スウェーデン語、デンマーク語、ノルウェー語、六つの言葉が比較されています。この中で、英語のoneにあたる語は、発音やスペリングは少し違っていますが、共通性又はごく近いことはすぐ分かるでしょう。（例は略）さらにfiveは、ドイツ語のfünf（フュンフ）、オランダ語vijf（ファイフ）、北欧3国はfem（フェム）で同形、関連性がすぐわかります。英語とドイツ語を比べると、ドイツ語には鼻に抜ける音nが加わってい

ますが、英語では欠けているだけです。他の例としては、Ladiesという複数系の表示があります。何のことかわかりますね。こう書かれている場所へは、男は原則的に入ってはいけないことになっている。これは英語ではGentlemenと対応します。ドイツ語ではDamen (ダーメン) 又はFrauen (フラウエン) 対Herren (ヘレン) 又はMänner (メンネル)。DamenとHerrenを種にした笑い話があります。日本人がドイツへ旅行して生理的要求を感じたのでその場所へ行った。ところがダーメンと書いてある。ダメだと思って入らなかったが、隣の方はヘーレンだから入ってはいけない。結局使えなかったという冗談です。ほとんど同じなのがオランダ語で、さらにスウェーデン語、デンマーク語、ノルウェー語とつなげて見ると、共通性が非常に明らかです。ただし、Damenは本来はラテン系の言葉です。

同じように、次のラテン系の表を見て下さい。フランス語でLadiesに当たるのはDames (ダーム) で、GentlemenはMessieurs (ムッシュー)、イタリア語ではSignore (シニョーレ) とSignori (シニョーリ)、複数形ですから、語尾が変化します。あるいはDonne (ドンネ) とUomini (ウオミニ)、後者は「人間」の意味でも使われます。スペイン語ではセニョーラスとセニョーレス、女性の複数語尾-as、男性の複数語尾-esがつく。又はダームスとキャバレロス、これは敬称で、日本語では「殿方」とでも言うところです。ポルトガル語も、少し離れたルーマニア語も、ラテン系であることが推測できます。それと、先ほどの数詞の5ですが、ゲルマン系の語と大分形が違っている。しかし、本当は元は同じなんです。(説明は少し複雑ですが、だんだんに見て行きます) まずフランス語ではcinq (サンク)、英語風の発音表記でsangですが、最後の音は子音の前で消えることもあり、次に母音が来る時に、いわゆるリエゾン(連声)の場合に出て来ます。たとえば、女性用の『ヴァンサンカン(vingt-cinq-ans)』(25歳)という雑誌がありました。ヴァンサンクにアンがついてqで示される音が復活する。25歳はお肌の曲がり角、などと言いまして、まだ曲がり角に到達していない人がこの部屋にはたくさんいることになります。(が、曲がり角になるとこのqが現れます) これも冗談の一つですが、フランス語では5の序数、「5番目の」(英語のfifth)をcinquième (サンキエーム) と言い、日本語の「3階」と似た発音なので、うっかりするとエレベーター内で間違いが起こる、というこ

とです。さらにイタリア語ではcinque (チンクェ) となり、スペイン語とポルトガル語はほぼ同じでcinco (シンコ)、ルーマニア語ではcinci (チンチ)。これらの差は元をたどって、共通の祖先のラテン語 quinque (クインクェ) と比較すればすぐに理解できます。——音楽関係で使う trio (トリオ)、quartet (クワルテット)、quintet (クインテット) など参照——quinqueのquで示される部分は、音声学的に言うときとw、すなわち口の奥の方の閉鎖音と唇の摩擦音とが一緒に発音される形、k^wで示されます。Wの音が弱くなって、kの音が少し前にずれて摩擦が加わるとtʃ(チ)になります。日本語でもカ行の音でki(キ)と表記できるものは、子どもや方言の場合よくtʃi(チ)と発音されます。それがさらに進んで、摩擦音だけになるとs(ス)で、フランス語の形になります。——つまり、k^w→k→tʃ→sという変化——その結果、現在の状態になった、という説明です。さらにつけ加えると、このquは、資料6の左から2番目のギリシア語の所を見ると、pの音と対応することがわかります。ギリシア語ではπέντε、ラテン文字ではpente(ペンテ)。9月11日の事件でアメリカの国防総省が損害を受けましたが、この建物をペンタゴンと呼んでいます。これはギリシア語から来た名前で、五角形の建物だからそう呼ぶのです。すなわち、ギリシア語のpenteとラテン語のquinqueは共通の、ある形から分かれた。ゲルマン系の英語では最終的にfiveになっていますが、これについて、ギリシア語などのpがゲルマン系ではfに変わった—グリムの法則参照—、などの幾つもの音声対応の法則性が示され、学問的・歴史的に裏付けられました。ゲルマン系の言葉は英語に非常に近いからすぐわかる。ラテン系の言葉は一見関係がないようだが、実は元は同じだ、ということです。

同様に、スラヴ系の言語比較表、資料4を見て下さい。ロシア語の文字がわかりにくいので、ラテン文字に書きかえてありますが、5はピャーチです。ポーランド語でピェンチ、チェコ語でピェト、セルビア・クロアチア語とブルガリア語でペトで、最初のp(と最後のt)はギリシア語の場合と共通です。元が同じだ、とすぐわかります。それから、Ladiesはロシア語ではジェンスカヤ、又はジェンシチヌイで、男の場合はムシユスカヤ又はムシユチヌイです。ヨーロッパで使われている文字は大きく分けてラテン文字とギリシア文字で、ロシア語やブルガリア語、セルビア語などはギリシア文字を手直したキリル文字

を用います。今はラテン系の文学の方がはるかに有力ですが、スラヴ方面を勉強する時にはこの文字の形もおぼえる必要があります。右の方までずっと見て貰うとわかりますが、単語の形の系列はゲルマン系やラテン系と違うけれども、本来的には同じです。たとえば、スラヴ系で女性を示すジェンという形はギリシア語と一致します。その説明をしておきます。資料5を一寸飛ばして、資料6のギリシア語の表を見ると、Ladiesの所に表示が二つあります。左の方はキュリエですが、右はギュネコーンで、この最初の部分をラテン文字化すると gyn-になり、スラヴ系のženに該当し、英語での queen および quean とも関係することが証明されています。それから、ギリシア語の男性の所は複数形でアンドローン、一般には「人間」という意味です。英語に書きかえた形では単数形での anthropos や「人類愛」「博愛」の意味での philanthropy や、ラテン語の「猿人」 pithecanthropus (ピテカントロプス) と関係があります。

続けて資料5を見ると、フィノ・ウゴール系とバルト系と書いてあります。前者はフィンランドとハンガリーをまとめた呼び名ですが、フィンランド語、ハンガリー語、エストニア語はウラル系で、インド・ヨーロッパ語とは違う系列です。この3つの言葉にはある種の共通性があるけれど、ゲルマン系、ラテン系、スラヴ系とは全然違う単語になっています。たとえばハンガリー語の Ladies の所はナークネクとハールジェクで、発音は正確かどうかわかりませんが、男性の方もファールフィアク、ウーラクで全く別です。数詞の5もアートゥです。エストニア、ラトヴィア、リトアニアはバルト3国と呼ばれる小さな国々で、一時期完全にソ連の支配下にありましたが、今は独立しています。リトアニア語には、インド・ヨーロッパ語の非常に古い形が残されている、と言われます。

最終的に資料6の表をもう一度見て下さい。ギリシア語とアルバニア語はインド・ヨーロッパ語の仲間ですから、ある程度共通性がありますが、トルコ語とアラビア語は関係ありません。そして、一番右にはエスペラント語が示されています。この言葉は、よく知られているように人工語の代表で、リトアニア出身のユダヤ系の医者でザメンホフという人が、ポーランドのワルシャワで発表したものです。よく検討すればわかるように、これはインド・ヨーロッパ系の言葉を混ぜ合

わせた作りです。で、エスペラントは全くの国際語だから、日本人にも誰でも簡単に勉強できるという意見があります。たしかに文法など非常に簡略になっていますが、単語そのものはインド・ヨーロッパ語、特にラテン系のものが中心です。まずエスペラント（希望を抱く者）という名前自体がスペイン語との関係を示唆しています。もうこの言葉を知っている人もいるかもしれませんが、例のLadiesの所を見るとsinjorinoj（シニョリーノイ）となっていますね。これは女性を示す複数形で、男性のsinjoroj（シニョーロイ）に対応します。（sinjorinojは、男性形の語幹sinjor-+女性を示す語尾-ino+複数語尾-j）数詞の5も kvin（クヴィーン）で、ラテン系との関係がわかります。エスペラント語の規則はとても簡単で、単語もスペイン語を勉強している人にはやさしいでしょう。名詞の語尾はすべて-oにする、複数の語尾は-j、目的格には-nをつけるなど、世界中のどんな言葉でもそんな単純な規則を適用すればエスペラントに組み入れることができる。いつかエスペラントを使う人たちといろんな話をして、エスペラントにはどんな単語でもあるのだと自慢するものですから、それでは日本語の「たくあん」はどう言うのかと聞いたら、「タクアーノ」でいいのだと、まことに単純です。何でも元の材料を使って語尾だけつければエスペラント語になる。ただし、基本的な語彙が日本人には初めてのものが多いですから、そこから出発しなければならないという不利な点もあります。

今いろいろ言いました言葉の違いというのは結局、長い間歴史的に形成されたものですから、そう簡単に埋め合わすことはできない。特に言葉に関して非常に気をつけなくてはならないことがあります。つまり、言葉は基本的に人間どうしが仲良くするために、相互理解、コミュニケーションに有効に役立てるものだ、という意識が我々には抜きがたくあるのですが、実は言葉は差別的な力をとても強く持っている。世の中のさまざまなものを区別するために言葉を用いるわけですから、言葉と差別とは実は一体なんですね。大まかな言い方になりますが、我々は自分と違う言葉を使う人たちの社会に入っていくときには抵抗を感じます。まわりの人たちがしゃべっている内容が全然わからない。これは大変な不安です。一方、その言葉を前から使っている人たちは、新しくやって来てそのグループの言葉が使えない人たちに対して、ある種の差別感を持ちます。身近な例で言えば方言の問題。

たとえば東京には東京あたりの大体きまった言い方があります。それを知らない人、別の方言を使う人が東京へ来て、ある種の仲間はずれにされる。あるいは東京の人が西日本、たとえば大阪へ行って、言葉の面で、違う言葉を使うということで差別される。これは難しい問題ですが、ヨーロッパのそれぞれの国が、現在まで頑固にその枠を守って仲良くできないのは、言葉の違いがかなり影響しているのだと思われます。

ヨーロッパでは、風俗、習慣に関してはかなり共通性があります。一般にヨーロッパ人は肉食人種だと言われるように、肉を主食とする人たちが多くいます。ただし、ヨーロッパでも貧しい地域ではそんなに肉は食べられないようです。我々が心に抱いているような場面とはちょっと違っている例が結構あります。地域による差が相当大きいです。肉食の問題は日本人にとっても重要ですが、少なくとも肉の管理についてはヨーロッパほどきちんとしていません。例の狂牛病の騒ぎなども、ヨーロッパに学ぶべき点は多いと思います。

ここで資料1に戻ります。国家的区分に触れる余地がありませんでした。ヨーロッパの各国を安定した感じで捉えている人が多いと思いますが、実はあちこちで国境を巡る紛争や、そこに住む人たちのいざこざが常に起っています。国家体制というものは、地域的なもの、民族的なもの、文化的なものを越えて作られていますから、ぶつかり合いがしょっちゅう生ずる。一番いいのは民族ごとにまとまって、それぞれに国を作る。いわゆる民族国家がはっきりすれば解決されそうですが、それも別の面で見るといろんな危険性を含んでいる。日本のように単一民族国家だという幻想——これはある意味で崩れかかっていますが——を持って他国と接すると、時にはとんでもないことになります。今回の不幸なアフガニスタンの事件などは、その複雑性をとてもよく知らせてくれると思いますが、国家という形、民族という形は、言語や文化などとの関係が極度に複雑ですから、単純には考えられません。政治形態の面で言えば、いわゆる君主制と民主制の問題があります。ヨーロッパの古い君主制の国家、たとえばイギリスとかオランダの王室がよく例に挙げられますが、長い間上手に一般の国民と釣り合いを取るようになってますから、あまり違和感なしに生活できる。日本の場合もそれに近くなっているかもしれませんが、まだいろいろお互いに

考えなければならないことが残っているように思います。たとえば今回、皇室の直系として女の宮様、内親王が生まれました。すると早速、皇位継承の問題をどうしようか、ということで一生懸命に頭を使う。もっと大切な問題があるのではないかと思うのですが、国家体制と絡まり合うとそんなことになります。

食べ物や飲み物、服装などに関しても、ヨーロッパは実に多様です。ただ一つの単純な像で考えないほうがよいと思います。日本では、ヨーロッパの文化的にかなり派手な点を真似する傾向が強すぎるような感じがありますが、一般のヨーロッパの人たちは、日本人たちと比べて、むしろずっと質素ではないかと感じます。これは我々が見習わねばならぬことの一つでしょう。

いずれにせよ、ヨーロッパは日本からずいぶん遠い所ですから、その意味ではこれから先、どれほど接触する機会があるか、それは皆さんの生活の仕方によります。ただ、自分が実際にそこへ行かなくても、さまざまな接点が今後もっと増えて行くでしょう。接し方によっては、バーチャルな世界として頭の中にいろんな像ができてしまう。それがいい場合もあるし、悪い場合もありますが、マイナスの方向に行かないように気をつけて、「ヨーロッパはこんな所だ、インターネットなどでよく知ってる」などと思いつままない方がよいのではないかと、というのが年寄りからの一つの忠告です。

(この文章は2001年12月7日の講演を整理・補正したものです)